

岩手郡医報

平成5年4月 No.40

編集 発行

岩手郡医師会

題字 零石町高橋孝先生



ザゼンソウ（サトイモ科）

国道46号線の田沢湖方面への途中道すがらにみられたミズバショウの群落。

その中に見られる『ザゼンソウ』（サトイモ科、別名ダルマソウ、和名は仏焰苞）

焰を背に坐禅を組んでいる高僧に見たてたのでこの名がある。暗紫色で神秘的で何か伝説でも秘めたような花である。仏焰苞の中の多肉の花穂は楕円形で短かく、黄花を密集している。花期（4月～5月頃）も生育環境も葉の大きさも大体水芭蕉と似ているが、やや湿気の少ない所に生え、水の中に生えることはない。（『岩手の高山植物』より）（M・S記）

目 次

『ザゼンソウ』……………	1	平成5年度社保・国保の提出協力日 について……………	13
岩手郡医師会臨時総会……………	2	短　　歌　坂井博毅……………	13
平成5年度岩手郡医師会事業計画……………	5	隨　想「楽しい酒」高橋　孝……………	14
平成5年度一般会計予算書……………	5	「おらほの先生」秋浜内科・小児科医院の巻……………	15
平成5年度休祭日当番医予算書……………	6	会員の退会……………	16
学術講演「最近の脳外科治療」		編集後記……………	16
岩手医大教授 小川 彰先生……………	7		
及川忠人先生の受賞記念祝賀会……………	8		
第5回岩手郡地区学校保健・安全・給食研究大会			
上原充郎……………	9		
平成4年度岩手県民健康講座 及川忠人……………	10		
今日の話題から……………	11		

岩手郡医師会臨時総会

日時：平成5年3月6日（土）午後3時30分

場所：ホテル紫苑（つなぎ温泉・御所湖畔）



次 第

1. 開会の言葉
2. 物故会員への黙祷
3. 会長挨拶
4. 資格確認
5. 報告
 - 1)勤務医部会 2)広報委員会 3)地域医療部 4)社会保険問題協議会 5)学校医部会 6)健康教育部会 7)県医師会代議員会 8)総務より 9)臨床内科医会 10)外科、整形外科医会 11)生涯教育委員会

6. 議事
 - 1)平成5年度岩手郡医師会事業計画（案）
 - 2)平成5年度岩手郡医師会一般会計予算書（案）
 - 3)平成5年度岩手郡医師会休祭日当番医予算書（案）
 - 4)その他
7. 学術講演

演題『最近の脳外科治療』
講師 岩手医科大学医学部脳神経外科
教授 小川 彰先生
8. 閉会の言葉
9. 懇親会司会 西島康之・及川忠人先生

[4] 資格確認……会員総数59名、委任状27名、出席21名により総会は成立。

[5] 報 告

〈勤務医部会〉 佐藤郁郎 副会長

第60回勤務医部会幹事会、花巻市医師会勤務医部会員との懇談会がH5年1月30日花巻市にて開催され、「勤務医の将来像」と題して協議が行われ、若手医師（阿部満先生と阿部裕行先生）の立場から現状と将来について述べられたあと、地域医療における勤務医の役

割について（新里昭二県立東和病院院長）述べた。地元医師会長より老令化した開業医の継承問題について、また地元開業医より将来開業をめざす勤務医への提言があった。

〈広報部報告〉 鳴信理事

去る平成4年9月12日（土）午後3時より岩手県医師会館において平成4年度いわて医報編集委員、都市医師会広報委員連絡協議会が

開かれた。

その内容についてはすでに いわて医報1992.10月号（No. 497）に詳細は報告されていますので簡単にまとめます。

平成4年4月より新たに郡市広報委員になられた方も数人おりその紹介のあと、平成4年3月以降のいわて医報の発行について報告があり、会員が他紙（例えば日医雑誌、日医ニュース、日本医事新報など）に掲載されたものの報告も行われた。

○ 次いで郡市広報委員にアンケート調査した結果も報告された。

いわて医報の中で関心のある項目ベスト5は

- 1) くずかご
- 2) 重要事項
- 3) 巻頭言
- 4) I M A W h o' s W h o
- 5) 郡市医報抄
論壇
隨想

○ その他いわて医報500号（平成5年1月号）に対する意見など

○ 又県医師会広報活動として

- 1 対外広報活動
 - 1) 新医師との懇談会及びオリエンテーション
 - 2) 健康教育活動
 - 3) 地方新聞への広報活動
- 2 会内広報活動
 - 1) いわて医報の発行
 - 2) 郡市医師会広報委員との連携
 - 3) いわて医報移動編集委員会
 - 4) その他アンケート調査など

○ 日本医師会広報活動への協力

以上が話し合われた

締めとして佐藤県医副会長がいっていたこ

とですがこれから大いに執筆者の層を拡げてとにかく書いて参加者意識をもってもらうことが大事と思うと述べられ、このことは岩手郡医報の編集に携っているものとしても同感と思われた。

いずれ何でもいいですから「時に思う」とか「趣味の話」など皆様からの投稿を歓迎します。

〈社会保険問題協議会〉 高橋 孝 副会長
H4年10月3日に行われた社会保険医療担当者集団指導について（岩手郡医報No.39に詳細あり参照のこと）の報告。

〈学校医部会〉 上原充郎 理事
第2回学校医部会幹事会

日時 平成5年1月17日（日）午後12時

場所 岩手県医師会館3階中会議室

I. 平成4年度岩手県医師会学校医部会活動状況

○ H4.5.30第1回学校医部会幹事会

○ H4.8.9第4回東北学校保健・学校医大会
於秋田県

○ H4.11.7平成4年度第23回全国学校保健・学校医大会 於山梨県

○ H4.11.11県教育委員会との懇談会
教職員の健康診断はその学校の校医が行う。これに対する報酬は各々の教育委員会と話し合って下さい。

○ H5.1.17第10回岩手県学校保健・学校医大会

平成4年度総会

第2回学校医部会幹事会

○ H5.2.19~20日医主催平成4年度学校保健講習会於日本医師会大ホール

II. 平成5年度事業計画

- (1) 岩手県学校保健・学校医大会の開催
- (2) 各種検診活動の推進
- (3) 学校保健関係団体との連携

- (4) 小児成人病予防対策の展開
- (5) 児童生徒の今日的問題の検討
(精神衛生、思春期、スポーツ等)

III. 児童生徒の結核検診について。

小・中学校における胸部エックス線間接撮影が廃止になり、ツ反が結核の有無を決定する唯一の手段となりました。従ってツ反を行う際、接種部位の膨脹が5.0mmになるように接種することが大切です。ツ反陽性者には医師の判断により精密検査を行うが、全て一律に行うものでなく、胸部エックス線直接撮影、断層撮影、喀痰検査等、個別に必要に応じて行う。確定診断までが精密検査の範疇であり、その費用は地方交付税で対応されるものであるから委託医療機関は精密検査内容について行政と十分協議の上、実施することが望ましい。

(いわて医報、No. 501, P 70参照のこと)

〈健康教育部会〉 岡本 彰 理事
H5年1月20日、1月27日、2月3日と3回にわたって松尾村総合福祉センターを会場として岩手県民健康講座が開催され多数の村民が参加され、2月3日には受講者には修了証書が交付された。

〈総務より〉 西島 康之 理事

A 岩手郡医師会会費納入について

平成5年度岩手郡医師会会費徴収について
は平成4年度と同様のご協力を御願い申し上げます。引き続きA会員は95,000円、B会員は35,000円ですが、出来れば一括納入が手数もなくトラブル（忘れることが多いため）も少ないようですので宜しく御配慮を御願い致します。

B 岩手郡医師会主催の様々な行事について

今後はいわて医報、その他に注意をされ、
参加希望の場合には会長もしくは総務に申込

み依頼を御願い致します。できれば、各町村にまとめて頂き郡医師会として一括して県医師会へ申し込む形式を維持したいので各町村の連絡係の先生方にはご面倒でも宜しくご協力を御願い致します。

C 県医師会主催の各種の会について

原則として参加費用は個人の負担とし、町村単位で会費を徴収して、一括して郡医師会より県医師会へ納入することにしたい。行事の日時や詳細については郡医師会事務局（松本）に問い合わせて欲しい。

D 役員会・会計監査・理事会について

今までと同様に通知致します。

県医師会総会（春・秋）、特別講演会、野球大会、ゴルフ大会等については参加希望者を前もって把握出来るように、各会員のご協力を御願いいたします。

〈臨床内科医会〉 西島 康之 理事

第5回岩手県臨床内科医会総会並びに日医・県医生涯教育講座がH5年3月7日県医師会館にて開催されます。

講演：

1. 「心筋梗塞の発症と死亡に関する諸問題」

岩手医大教授 平 盛 勝 彦先生

2. 「消化管癌に対する内視鏡的アプローチ」

岩手医大助教授 佐 藤 邦 夫先生

3. 「画像診断の動向」

県立中央病院副院長 松 岡 昭 治先生

〈外科・整形外科医会〉 高橋牧之介会長

H5年1月10日開催された。この会は昭和58年より発会し、国保・社保の審査員を推せんすることを主な目的としている。

〈生涯教育委員会〉 上田 靖彦 副会長

平成4年度生涯教育制度の申告書提出の期限が近づきました。平成5年3月15日号の日本医師会雑誌の巻頭に綴じ込みました「平成4

「年度生涯教育申告書」の提出はお済みでしょうか、4月15日までに岩手郡医師会へ提出していただきますようお願いいたします。

参加証明を取得した時間は、本年度に関しては、10時間以下の人には10時間、それ以上の人

はその時間を記入して下さい。

取得した参加証明（参加証、シールなど）は本人が自分で保管しておいて下さい。

次回よりは参加証明が必要となりますのでよろしくお願い申し上げます。

[6] 議 事

平成5年度岩手郡医師会事業計画

二十一世紀に向けた医療の動向は、世界的な規模で変革しようとしている。現在わが国は世界一の長寿社会となり、保健・医療・福祉の総合的展開を図るべく、国民医療体制の創造に向かって進んでいる。

このことは医師会が当面する大きな課題であり、各領域の諸施策に対して積極的に参画し、地域の医療を守るために英知を結集しなければならない。そのためにも医の大義を守り、保健事業及び包括的地域医療の推進を測り、地域社会と相互理解、連携の確立に努力

するものとする。

次の事項を重点事業とする

1. 医道による済世
2. 県医師会の事業への全面協力
3. 有効なる地域医療活動の展開
4. 会員福祉の充実
5. 保険診療の適正化
6. 生涯教育の推進
7. 医療経営の安定への努力
8. 広報活動の積極的展開
9. 地域住民健康教育の充実

平成5年度・一般会計予算書

自・平成 5年 4月 1日

社団法人岩手郡医師会

至・平成 6年 3月31日

《1. 収 入 の 部》

単位：円

科 目	金 額	摘要	要
繰 越 金	2,128,000	前年度より繰越	
会 費	4,370,000	A 会 員 B 会 員	3,705,000 (@95,000×39人) 665,000 (@35,000×19人)
補 助 金	85,000	地 域 医 療 学 校 医	30,000 55,000
雜 収 入	67,000	貯 金 利 子	
合 計	6,650,000		

《2. 支出の部》

単位：円

科 目	金 額	摘 要
[事業費]	(5,830,000)	
会議費	2,080,000	総 会 2回 1,000,000 役員会 8回 800,000 総務会 8回 80,000 監事会 1回 100,000 県医総会費 1回 100,000
生涯教育費	950,000	医学講演会・懇談会 500,000 学校医研修会 100,000 スポーツ医学研修会 100,000 生涯教育連絡会 100,000 地域医療研修会 100,000 予 備 費 50,000
地域保健	400,000	各町村の地域保健懇談会 300,000 他都市との懇談会 100,000
広報発行費	600,000	印 刷 費 6回 400,000 発 送 費 6回 70,000 編集会議費 70,000 雑 費 60,000
旅費交通費	350,000	
交際費	1,000,000	
慶弔見舞金	200,000	
広告費	100,000	
雑費	100,000	
予備費	50,000	
[事務費]	(820,000)	
事務費	820,000	事務連絡費 80,000 通信費 100,000 消耗品費 150,000 印刷費 80,000 リース料 230,000 事務処理費 120,000 雑費 60,000
合 計	6,650,000	

平成5年度・休祭日当番医予算書

社団法人 岩手郡医師会

自・平成5年4月1日

至・平成6年3月31日

《1. 収入の部》

単位：円

科 目	金 額	摘 要
繰越金	602,000	前年度より繰越
補助金	3,699,000	
雑収入	9,000	預金利息
合 計	4,310,000	

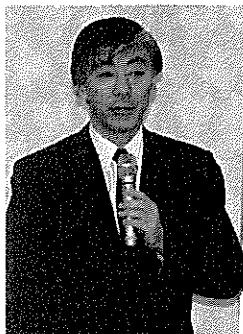
〔2.支出の部〕

単位：円

科 目	金 額	摘要	要
報 償 金	3,310,000	健康教育費 救急対策費 県医野球大会 県医ゴルフ大会 郡学校保健会補助金 講演会・合同研修費 厚生対策費	1,260,000(@20,000×63人) 350,000 500,000 200,000 100,000 600,000 300,000
需 要 費	350,000	会議費 3回 通信費・消耗品費	300,000 50,000
旅 費 交 通 費	350,000		
役 務 費	100,000	印 刷 費 通信電話料	60,000 40,000
予 備 費	200,000		
合 計	4,310,000		

〔7〕学術講演

『最近の脳外科治療』



岩手医大脳外科教授

小川 彰先生

講演要旨

◇はじめに

近代脳神経外科学の基礎が確立されたのは1900年頃にアメリカのクッシング先生が系統立てて初めて手がけたもので、未だ90年前後しか経っていない分野である。最近の手術は20年前より顕微鏡を使って血管や深部組織の取扱いが可能となり、他に1972年頃にCT、1982年頃にはMRIなどを利用した検査機器の発達により画像診断の技術が格段の進歩をとげた。更にラジオアイソトープ核医学などにより脳機能の三次元的局所診断が可能となった。

脳外科領域では、滝沢村のアイソトープ研究所にある脳循環代謝、脳の機能情報を反映す

講 師 岩手医大脳外科教授

小 川 彰 先 生

〈講師紹介〉

小川彰先生は、昭和49年岩手医大卒業後同年4月より東北大学脳疾患研究施設脳神経外科入局、昭和55年日本脳神経外科学会専門医認定、昭和56年9月「実験的局所梗塞の脳循環について」で学位取得、昭和57年国立仙台病院脳神経外科、昭和59年東北大学医学部講師、昭和60年スイスチューリッヒ大学留学、昭和60年国立仙台病院脳神経外科医長、昭和63年東北大学医学部助教授昇任、平成3年アメリカアリゾナ大学留学、平成4年10月岩手医科大学脳神経外科教授として赴任。

る画像診断装置（断層法）のポジtronエミッションCTもあるためこれ利用している。これは他に医大の循環器内科、神経内科なども利用している。

◇脳卒中の治療

始めに多数の手術自験例をスライドを使って術前・術後の症例を比較しながら説明し、各症例について具体的な治療方針・方法などを解説した。

東北地方に特に多い脳卒中の治療としては、

・出血 高血圧性脳内出血

くも膜下出血…脳動脈瘤など家庭的要因あり

・虚血 脳梗塞

脳血栓

・脳卒中後の死因としては、他の疾患で不幸な転帰をとる場合が多く報告されている。

・脳梗塞

最近は増えてきている。いわゆる半身不随となる脳梗塞即ち完成型脳梗塞は、前ぶれとしてTIA（一過性脳虚血発作）、RIND（回復しうる虚血性神経脱落症）がある。頭蓋内血管病変が日本人には多い。

欧米人—アルツハイマー型痴呆

日本人—脳血管型痴呆

・脳血栓

最近は開頭してEmbolectomyをやるよりも血管内カテーテルによりEmbolisationした方が結果的にも社会復帰の役割が

50%強となっている。死亡が少ないので今後はこの方法が主流となっていくでしょう。機能的診断技術の進歩により、手術前に脳血流量を測定してあまりにも下っている人は手術をやっても無駄であり、中等度に下っている人は手術をやらないと半身不随になってしまう。また軽い人は手術をやらなくてもいいと考える。

これから脳外科治療は脳梗塞を解決しなければ脳卒中の解決はないとまでいえると思います。と同時に最近の脳外科での強い味方は画像診断の進歩があげられ、機能的画像診断ができること、また技術的には細い深部まで到達できる顕微鏡手術によって可能になってきたことがあげられる。

及川忠人先生の“岩手県学校保健会功労賞”受賞記念祝賀会挙行!!

日 時：平成5年2月20日 17:40～

会 場：県公会堂多賀

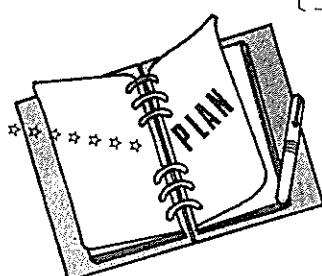
参加者：岩手郡教育関係者約35名
岩手郡医師・歯科医師関係者約15名

祝賀会は零石町立安庭小学校、吉田校長先生の司会で進行され、開会のことば、花束贈呈、及川先生からの謝辞、松尾村教育委員長、青木正先生の乾杯と続き、祝宴へと移り、約2時間にわたり会は盛大に行われた。

及川先生は学校保健に対する長年の功績が認められ、平成4年12月4日、第28回岩手県学校保健・安全・給食研究大会において、岩手

県教育委員会より表彰されたものです。先生の今後一層のご活躍を期待致します。

〔上原 記〕



第5回岩手郡地区学校保健・安全・給食研究大会

学校医部 上原 充郎

期日：平成5年2月20日(土) 14:00～17:00

会場：岩手県公会堂

参加者：学校関係者約名60

医師・歯科医師関係者約20名

会長挨拶（高橋孝会長）

学校と医療が協力して学童の精神的、肉体的健全発育に努力しましょうとのお話しもあり。

I 研究発表

1. 学校給食を通してバランス良い食事をするための指導と取り組み。

玉山村学校保健会教諭 高橋泉先生

玉山村学校保健会教諭 波岡洋子先生

村内の児童、生徒の食事の実態を調査し、バランス良い食事をするため、子供たちにどのように指導するかに取り組んだ研究。

2. 健康な体をつくる食生活指導はどうあればよいか。

食生活指導の充実をめざして

安代町学校保健会養護教諭畠山純子先生

健康な身体は適切な食習慣が大切とし、学校と家庭が共通理解のもとに両者からの指導の大切さを研究。

II 講義

1. 学校保健について

高橋医院院長 高橋 牧之介先生

学校保健は現在、非常に大きな転換期を迎えており、児童、生徒を取り巻く環境の変化も健康上、大きな影響を及ぼしており、学校保健はもちろん、医師・地域の医療・保健・福祉・



高橋 牧之介先生

社会教育関係活動

機関などの協力による、学校と家庭と地域とが一体となった組織活動の必要性をお話し下さいました。

2. 小児成人病について 上原 充郎



上原 充郎先生

小児成人病検診の必要性と平成1, 2, 3年の岩手県と岩手郡の小・中学校の成人病検診の実施状況とそのデーターの比較。

III 研究協議及び座談会

及川忠人先生の座長により、約1時間の活発なディスカッションが行われました。詳細は先に会員に配布された「研究紀要第5号」を参照のこと。



平成4年度岩手県民健康講座

松尾村 及川忠人



会場：満員の熱心な聴講者 松尾村総合福祉センター

平成5年1月20日(火)から3週間に亘って平成4年度岩手県民健康講座が松尾村の総合福祉センターを会場として開催され、関係各位のご協力を戴き盛会裡に修了することが出来ました。全体の流れやその内容などの概略を報告したいと思います。

松尾村での開催は昭和60年以来8年ぶりであり、松尾村の住民にとってはまたとない健康教育の場としての位置づけがなされたことは有難いことであった。特に松尾村は医療機関が少なく教育啓蒙の機会も決して多いわけではないがこの県民健康講座の実施によって健康についての関心が深まったことは感謝であります。

メインテーマは「暮らしと健康」で副題として“豊かな人生をおくるために”であり、まず1月20日の開講式で始まった。岩手保健所長の一ノ渡義巳先生による挨拶があり、ついで上田靖彦岩手郡医師会副会長、松尾村保健センター所長の工藤光弘氏の挨拶を戴き、

トップをきって“食物と病気”という演題で岩手保健所長一ノ渡先生の素晴らしいお話を聞かせていただきました。暮らしと健康というメインテーマにふさわしく食生活と食物への考え方を懇切丁寧にご自分の経験からお話を戴いたことは素晴らしいことでした。ついで

“小児の事故”と題して伊藤伸郎先生のお話があった。小児期の死亡原因の第一位は事故死であることからこの事故を防ぐのが大人の役割であることを強調された。あまり早く講義が終わったために伊藤先生は手品を用意されて、その特別演技に拍手喝采であった。さらに嶋信先生は“更年期を健やかにすごすために”と題して巾の広い更年期を中心とした女性の様々な留意点を老化の予防とを交えて理解し易くお話を頂いた。ついで東八幡平病院の山口芳光栄養士が“病院の食事よもやま話”と題する講演があり、いろいろな病態や寝たきりまで広範な栄養についての基礎を話して頂き有意義であった。

第二日目（1月27日）は“糖尿病の予防と治療”と題して成島忠勝先生の基礎的でわかり易い講義について、上田靖彦先生は“癌を予防するための生活習慣”と題して癌の病態と食生活や様々な習慣との関連についても貴重なお話をされ、さらに東八幡平病院薬局長の堀川秀雄先生には“生活の中の薬の飲み方、使い方”と題して薬にまつわる基本的な考え方



岩手保健所長 一ノ渡義巳先生

方についての基本を誰でもが解るように話していただいた。西島康之先生は“呼吸器を守る日常生活”と題してご専門の広い領域を幅広くお話し下さり、肺疾患と喫煙との関連なども含めてひろく健康を維持するための方法を教えていただいた。

第三日目（2月3日）は岡本彰先生による“老年期の精神保健”と題する講義がまずあり、老化の基本受けとめかたから、老人の自殺率のことまで丁寧で含蓄のある講義をいただき、次に岩手保健所の時館千鶴子婦長が“在宅看護と介護の考え方”と題して看護の原点として介護の実際に気をつけるべきことをお話を頂き、さらに東八幡平病院理学療法士の貴田正秀先生が“家庭で出来るリハビリテーション”と題して家庭の中で実際に出来る寝たきりを防ぐための運動の基本について話され、ご自分の父親の体験も併せて興味深いお話をあった。最後の講義は“健やかに老いるために”と題して及川忠人が講義させて頂いた。人生の中での老いの位置づけや様々な精神的課題を取り上げわかりやすく総論的に解説した。

閉講式にあたり郡医師会会长高橋牧之介先生より受講者代表の高橋喜代治氏に受講修了証書が渡され、ついで健康づくりの大切さについて貴重な結論的なご挨拶があり、岩手保健所次長藤沢政則氏のご挨拶、そして最後に石羽根重志松尾村村長よりの感謝の挨拶があり、県民健康講座の全日程を修了することが出来た。

今回、高橋会長および岡本理事のご指導の下に、「暮らしと健康」というテーマでかなり思い切った内容に成るように努力した訳ですが、それ以上に村民の関心が高く全般的にも熱心な聴講態度に敬服致しました。また保健センターや郡医師会各位のご協力とご援助があったればこそと思いつこの紙面をお借りして感謝申し上げる次第です。岩手郡は八ヶ町村から成り次は八年後だと思いますがもう少し規模を縮小した健康講座の必要を感じたのは私だけでなく、この講座に参加した方々の実感であったようです。とにかくも盛会に終えることが出来たことに再度感謝し県民健康講座の概要報告に替えさせて頂きたいと存じます。



高橋郡医師会長より受講者代表へ修了証書授与

今日の話題から

30床までの「小規模入院施設」制度化を提言

日医検討委員会が中間答申

日本医師会小規模入院施設検討委員会（大道久委員長）は3月30日、かかりつけ医機能を基本機能とし病床数30床を上限とす

る「小規模入院施設」の制度化を求める中間答申をまとめた。19床までの有床診療所、20床以上の病院制度を残し、在宅医療支援、病

院に入院するまでの待機施設といった「地域特性に応じた柔軟な医療機能」、デイケアなど「中間施設機能と福祉的サービス」を担える「小規模入院施設」を新たな選択肢として設けるよう提案している。

これを受け富坂常任理事は同日、医療施設体系全体の中での位置づけなど、引き続き同委員会で議論を深める考えを示しながらも、「この方向に努力していく」と述べ、次期医療法改正で制度化を求める考え方を明確にした。

国立病院の医薬品等支払い遅延総額は105億円

参院予算委で宮沢首相が遺憾の意

宮沢首相は3月23日の参院予算委員会で、国立病院・療養所における医薬品、機材消耗品の未払い額が、105億円に上っている現状について、「ショックを受けた」と遺憾の念を露にし、支払い遅延となった原因、状況について厚生省から事情聴取する意向を表明した。首相は、一連の支払い遅延が、「薬価を巡る問題で生じているのか、あるいは、その他に事情があるのかもしれない」と述べ、「事情があるならば、一つ一つ直さなければならないし、事情がないならば責任をとってもらうしかない」と厳しく対処していく方針を示した。

〔コメント〕

国立病院の価格交渉が未妥結となっていることが、薬務行政の円滑化を欠く悪影響となっていることは、かねてから日医が指摘していたことであり、行政対応の鈍さは「今さらながらアキレタ」の感がある。

社会保険診療報酬の事業税非課税措置見直しを要請

衆院地方行政委員会

衆院地方行政委員会は3月25日、地方税法等の一部改正案を賛成多数で可決し、社会保

險診療報酬の事業税非課税措置などの地方税法の見直しを求める附帯決議を採択した。

附帯決議では、非課税などの特別措置について、「引き続き整理・合理化等の見直しを推進する」よう要請。とくに、事業税の社会保険診療報酬に対する非課税措置について、「所得課税との均衡を図る」べきとの方向を示し、自治省の取り組みを要請している。

〔コメント〕

診療報酬の事業税非課税措置は、医療の公共性及び非営利性を目的としている点で認められたもので、非課税措置を撤廃するならば、現在の社会保険診療報酬を根底から見直さない限り納得できない。これを論拠に自民党税調、政府税調とも話し合い、日医としては、存続のため全力をあげて対応していく。

盛岡地域保健医療

計画推進にあたって

2月17日、岩手県自治会館で盛岡地域保健医療協議会が開催された。

(1) 計画策定は昭和60年12月の医療法の一部改正により、既に策定されている昭和56年と昭和60年医療計画の改定が必要となり、昭和63年に同計画の保健医療部門の改定が行われたが、更に新しい県計画の策定に伴い、計画の見直しが必要となつた。

(2) 計画策定の趣旨は、多様化、高度化している地域住民の保健医療需要に対応して、保健医療資源を有効に活用し、その適正な配置を図るとともに、保健医療関係施設間の機能分担と連携を図り、地域保健医療のシステム化を推進し、健康増進から疾病の予防、診断・治療及びリハビリテーションに至る包括的な保健医療供給体制の確立を目指すものである。

(3) 計画の期間は、平成3年度を初年度とし、平成12年度を目標年次とする10か年計画であること。

(4) 健康増進部会長に川村隆夫盛岡赤十字病院長、医療資源部会長に角田紫波郡医師会長、救急医療部会長に高橋岩手郡医

師会長が、計画部会長に久保木盛岡市医師会長が委嘱された。

平成5年度社会保険診療報酬請求書の提出協力日について

平成5年 4月提出協力日 4月 6日 (火)

注2. 特定月 平成5年 5月 7日 (金)

5月提出協力日 5月 7日 (金)

6月 7日 (月)

6月提出協力日 6月 7日 (月)

11月 8日 (月)

7月提出協力日 7月 6日 (火)

平成6年 1月 7日 (金) 転勤のため

8月提出協力日 8月 6日 (金)

2月 7日 (月)

9月提出協力日 9月 6日 (火)

3月 7日 (月)

10月提出協力日 10月 6日 (水)

注3. 通常月の提出協力日は 6 日であるが、そ

11月提出協力日 11月 8日 (月)

日の日が土曜日 (完全週休2日制が実施され

12月提出協力日 12月 6日 (月)

ており、休日となっている) 又は日曜日

平成6年 1月提出協力日 1月 7日 (金)

にあたる場合には、提出協力日が月曜日

2月提出協力日 2月 7日 (月)

となっております。

3月提出協力日 3月 7日 (月)

注4. それぞれの月の提出協力日における受

付は、午後6時までとなっております。

平成5年の休日等における国保診療報酬請求書の提出締切日について

注1. 通常月10日 (午後5時まで)

注2. 特定月平成5年4月提出締切日 4月12日 (月) 正午まで

7月提出締切日 7月12日 (月) 正午まで

10月提出締切日 10月12日 (火) 正午まで

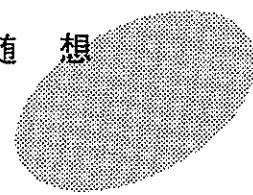
北國に叔母みまかりし日夕べ
秋めく風の立つは悲しき
忙しき子等と語れぬ今の身を
訴ふ嫗の鬱なる瞳

夕映えに登る満月山の端を
幾度もスキーに転ぶ妻の姿
見付け近づく白雪の山
木枯しの過ぎてしころの裸木の
枝にかかりし夕暮れの月
彫刻のマーブルの白その白に
まして劣らぬ初雪の白

岩手町 坂井博毅

短歌

隨 想



「樂 し い 酒」

零石町 高 橋 孝

「ウー」と、大きな声を出して、背伸びをして、荷物を棚から下ろし、気持ちの良い盛岡着である。

酒店の息子として酒好きで、医者の言う「休肝日」も、量も守れず、自分だけは人と違うレバーの持主のように思っている。それでも講演等で壇上に登れば、休肝日を設けて、1日2合しか飲んでいない人となる。

ただ、壇上に登って、肥満の害についての話しをするのは今迄はどうも白々しく、それではと努力をして12kgの減量に成功して、標準体重になり、これだけは本当の話しが出来るようになった。学会等とお勉強はあまり好みないので、視覚のみを使う趣味のみで、年2~3回は旅行をする。フルムーンを存分に使わせてもらっているのでお陰様で最近はグリーン車に乗れる。

帰りには必ず、東京あたりのデパートの地下を駆けめぐり、缶ビール一本、酒を二合と、人に強いられない自分好みの御菜を用意する。(おつまみではない) ある時はお刺身あり、天婦羅あり、いか納豆、漬物等もある。

個室ではないので、いか納豆止まりで、キムチの類は好物ではあるが、未だ持込んだことはない。

元々一人で静かに飲む方が好きで、話題が出る前に飲み始める。東京発17時40分の新幹線である。

夏はウイスキーが良く、自分好みの銘柄を携帯用のボトルで持参することもある。

ウイスキーのときは水割りにお茶の空瓶が

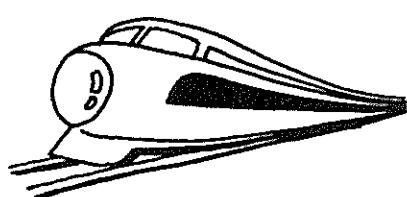
役に立つ。さて、隣の席に知っている人が乗り合わせていないことを願いつつ乗りこむ。

数年前には、買いこんだ御菜を開き、口を開かんとしたら、隣の席に母校の偉いプロフェッサーが乗り込み、酒も御菜も口つけずに盛岡に着いたことがあった。

しかし最近は便利となり、個室でなくても2階建ての新幹線がある。出来得れば2階の3~4番座席は階段の右で、隣りにもみえず室内にイヤホーンでもやり、音楽か何かでも聞かせ、話をさせず、一人で静かにうまい酒を飲むことができる。

キューゴトン、キューゴトンと心地良い音と揺れは、仙台あたりからは眠りを誘ってくれる。日頃も、アレ! うまい晩酌をのむために私は働いているのかなあと思うこともあるよう、最近はなんともおいしい帰りの酒を楽しむために旅行をするのかなあとさえ思っている。

今年は私も還暦を迎えたが、楽しい酒だけを飲んで来た。これからも楽しい酒だけを飲み続けたいと願っています。



おらほの先生

あの有名な詩人、石川啄木の里、玉山村渋民に我が院長、秋浜晃先生はオギャーと昭和2年9月10日に誕生しました。そして東に姫神山、西には雄大な岩手山を仰ぎ、この地で秋浜内科小児科医院を開業して30数年になります。

職場ではいつも奥様の名（久枝、久枝）を呼びながら夫婦円満に仕事に精を出しております。それを見ていると何と幸せなんだろうな……と、我々はうらやましくなるほどです。あつい…………!!

院長は戦中派なので、患者さんの中には院長よりちょっぴり年上の男の方をつかまえては「@れ@れさんは戦争には……」なんて話しを出して、その頃のこと夢中になってしまことがあります。院長も昔のことを言うようになったかぁ~~~~。もししかしたらとしかな……とおもうことがあります。いやまだまだ若い。

時には受験生の患者さんが見えたりすると、診察より、受験勉強のことを忙しいなか、話したり、問題を出したりして親身になって教えたりしています。その時の院長の姿はまるで、学校の先生のように見えます。その後患者さんを診てやり、「頑張れよ」と声をかけてやります。何と優しいんだろうと思いました。

又、夜間に急患が入ったりして呼び出され、院長の大好きなお酒を飲んで、赤トウガラシのような顔になって気持ちよさそうに…患者さんに（どうしたんだとか、いつか

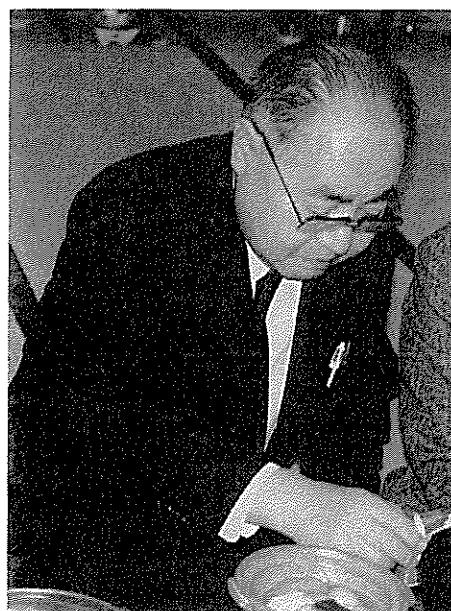
玉山村

秋浜内科・小児科医院の巻

らとか……等々）何度も何度もくりかえし問うことが多いあります。これはお酒のせいかな……？

我が秋浜医院の一年間の行事として忘れてはならない忘年会でのカラオケで、院長のとっとき、十八番（おはこ）は何といっても「軍歌」です。「きさまとおれとは同期の桜~~~~」とその時の院長の意気込みと言ったら何ものにもたとえがたいです。とても若いです~~~~。

最後に院長、きんさん、ぎんさんのように100歳まで、地域の医療の為、我々職員の為にこれからも頑張って下さい。お願ひします。



懇親会の席での秋浜先生

岩手郡医師会役員会

日 時：平成 5年 2月10日 (水)

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡

出席者：高橋牧、高橋孝、佐藤、
上田、八角、篠村、上原、
根本、嶋、岡本、及川、
西島、和田、高橋克

議 題：郡医師会臨時総会開催について

- 報告 H4. 6. 20 郡医師会総会後の報告事項
- 平成 5 年度事業計画について

- 平成 5 年度一般会計予算について
- 平成 5 年度休祭日当番医予算について
- 学術講演「最近の脳外科治療」

講師岩手医大脳神経外科教授

小 川 彰先生

〈会員の退会〉

伊 藤 昭 治 H5. 2. 2
(滝沢中央病院より)

小 原 富 雄 H5. 3. 30
(安代町小原医院)

川 端 德 衛 H5. 3. 4
(滝沢中央病院より)

大川原 真 澄 H5. 3. 31
(滝沢中央病院より)

編集後記

- 表紙写真は水芭蕉のある湿地帯にみられた水芭蕉の白色の花弁と濃いエンジ色のザゼンソウの花弁とのコントラストがとてもすてきだったので何枚かシャッターを押していた。そのうちの一枚であり、興味のある方は車のドライブかたがた訪れてみるといいと思います。すばらしい眺めでした。
- 去る3月6日に行われました平成4年度岩手郡医師会臨時総会を中心に今号御届けします。このとき平成5年度の事業計画、予算書等の審議が行われました。この中で県医師会主催の行事への参加の確認が今まで非常に不確実であった。即ち、参加しますとの返事のもとに参加費を郡医師会で総めて支払っても、当日の参加はその人数に満たないということが多い。この件については「総務より」の報告の項を参照され、確実な連絡をお願いしたいものです。

● 学術講演は、昨年秋岩手医大脳神経外科教授に赴任された小川彰先生の講演でしたが、最近は進歩する画像診断装置と共に顕微鏡下の深部に至る繊細で正確な手術が可能となり、手術成績も飛躍的に向上した結果を見て、脳外科領域の進歩を見る思いがしました。これからますますの発展と精進を祈念します。

● 第5回岩手郡学校保健、安全給食研究大会は、郡内の小・中学校養護の先生、町村教育委員会の関係者及び校医（医師・歯科医師）が多数参加された。また今回は松尾村の及川忠人先生が県教委功労表彰を受け、この祝賀パーティも同会場公会堂多賀にて行われた。

● 平成4年度岩手県民健康講座は松尾村を会場として行われ、大変な盛況であった。都合3回行われた講座も高い出席率であったという。担当した地元の及川忠人先生御苦勞様でした

(M. S記)